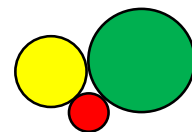


# 広報 いちいの杜



sometimes cure,  
always comfortable

## 平成30年度 いちいの杜 施設目標

スローガン ”地域包括ケアシステムと連携を密にし、

超強化型老健としての役割を担っていく。”

- 1 R-4システムを活用して業務の効率化を高めていく。
- 2 生活リハビリに沿った日常介護の実践。
- 3 デイケアでの生活リハビリの継続と在宅療養の質の向上。
- 4 地域包括支援センターとの連携強化。

## 巻頭言

理事長 金光 弘

老人保健施設としての役割を担うべく在宅強化型老健から超強化型老健となってから半年が過ぎた。予想通りの忙しさで、どの部署も猫の手も借りたいぐらいの状態となっている。そうなることを前提として、電子カルテR-4を導入したり、各フロアーにリハビリのOTを配置して生活リハビリを開始したり、入退所に向けての相談員の増強をしてスムーズに事が進むよう手配してきた。しかしどの部署も慢性的な人員不足に陥っており、なかなか悪循環から脱却できないでいる。こういう時こそ各部署のより一層の連携が必要なのである。老健には様々な職種のエキスパートが揃っている。それらの職員がバラバラに仕事をしていると仕事の能率は悪くなり、その挙げ句に職場の雰囲気もギスギスし、居心地のよくない職場になってしまうのだ。いちいの杜の良さは和気藹々として、それぞれの職員のチームワークが取れていることである。それが業務の忙しさにかまけているうちにどんどん希薄になってきている感が否めない。いちいの杜の内部での連携ができなければ日々の業務に差しさわるだけでなく、外部との連携などできるはずがないのである。

いちいの杜は老健としての業績は高く評価されており、引き続き2025年に向けて現在進行中の在宅復帰を主目的として活動していくことになんら変わりはない。日々の業務をより円滑に進めていく創意工夫をそれぞれの職員が考え、R-4を取り入れて各部署の連絡を密にすれば自ずと歯車は噛み合ってくるはずである。皆が同じ方向を向いた職場になれば外部からの入職者も増えてくるのである。各職員の一層の奮起を期待している。

## 多職種協働

施設長 浜田 篤

いちいの杜は介護施設の中の老健なので、利用者の方へ提供するサービスの共通基盤として、介護サービスがあります。基本的な介護サービスは、どの利用者の方に対しても共通に共通に提供されます。そして、利用者一人一人が他とは違う特徴がありますので、それに合わせた個別のサービスが、いちいの杜の介護福祉士を含むそれぞれの専門職によって提供されます。この共通部分と個別の特徴的部分の境界は明確に認識できるものではありません。そのため業務分担として、職種によって明確に分けることができず、普通は境界領域の業務内容はどっちつかずになり易いのです。

いちいの杜では、この境界領域の業務に対して、お互いが思いやり・譲り合い・助け合う、「多職種協働」が実現されています。多職種協働が成立する基盤にあるのは、職員一人一人の心持ちであると日々感じている今日この頃です。

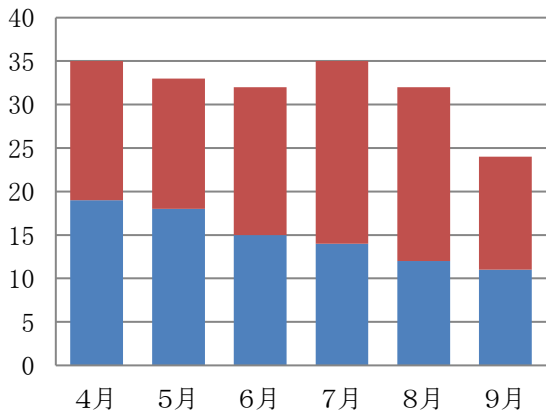
## 職種間の連携を

理事 飯塚 和子

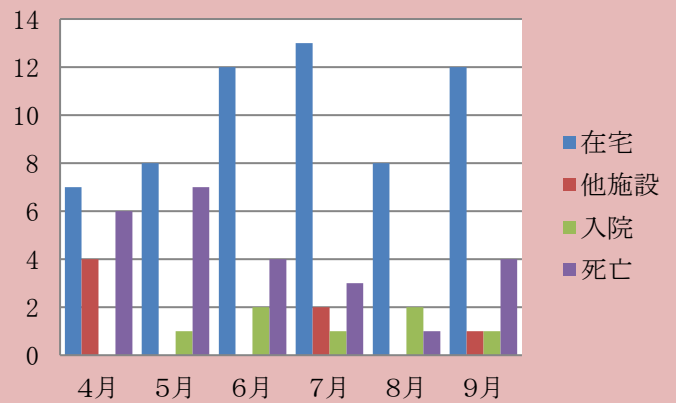
病院からいちいの杜に転院して来られる利用者の病状や経過を見ると、ずいぶん変って来たなと思う。病院の状況変化の波が、まともにいちいの杜に押し寄せて来ていると感じる。超強化型老健としての役割を果たしていく為の要件には退所する利用者の50%以上の在宅復帰が必要で、この数字を維持していくのは大変困難な事である。家に帰るための準備にそれぞれの専門職が関わり、しかも同様の歩調で速やかにすすめていかなければならない。特に介護職員は利用者の最も近い位置にいて日々の生活援助に退所後の介護指導も加わり業務量も増えている。近年、全国的に介護職員の人数が増えないことに危機感を覚えている。病院での治療を終えた利用者が、いちいの杜でリハビリをしながら安心して過ごし利用者が本来の姿を取り戻して在宅に戻れるようになる事が我々職員の望みである。その為にもケアの基盤となる介護職増員を期待している。連携を強め、情報を共有し超強化型老健の役割を果たしていきたい。

# 平成30年4月から平成30年9月の実績を報告します。

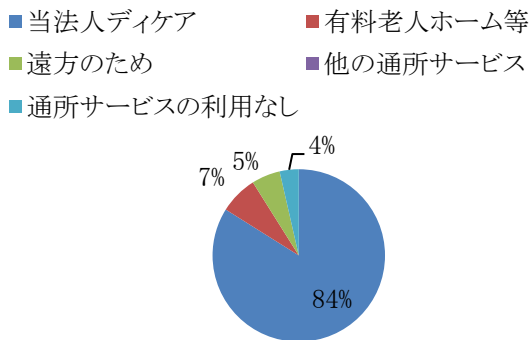
## (人) 入所者数(月別) ■ SS ■ 入所



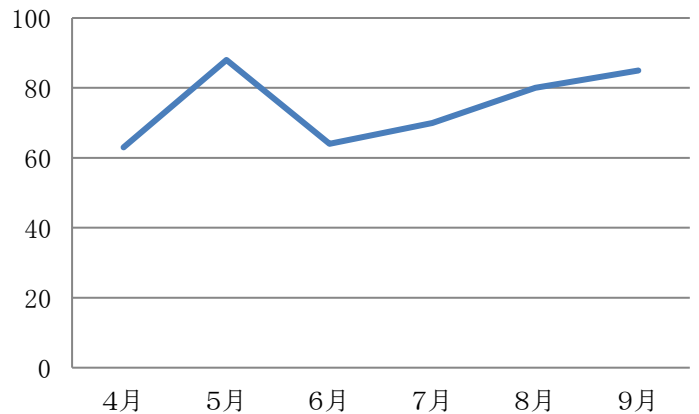
## (人) 退所者数(月別内訳)



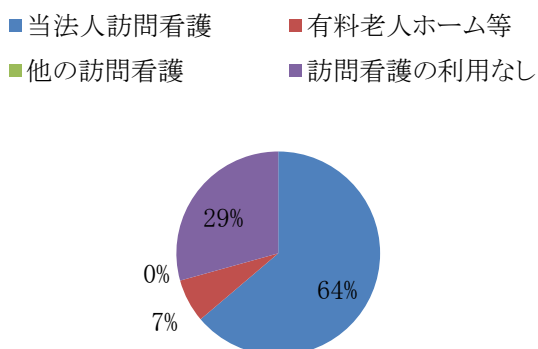
## 在宅復帰者の当法人 ディケア利用割合



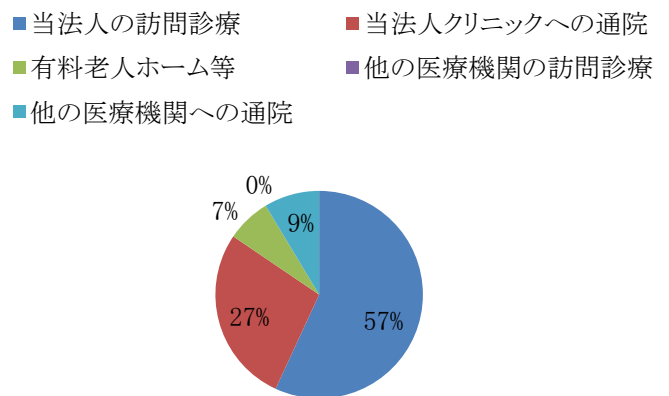
## 在宅復帰率(%)



## 在宅復帰者の当法人の 訪問看護利用割合



## 主治医



今年の上半期も平均78.6%の在宅復帰となりました。平均、月10名の利用者が在宅復帰を果たし、リピート利用が前年度5割からうち6割に上がっています。同法人の居宅介護支援事業所(67%)やディケア(82%)、訪問診療(57%)、訪問看護(65%)を利用し、施設入所中に受けている介護や看護、リハビリ、診療を在宅でも引き続き、継続して受けることで、安定した在宅生活を続け、リピート利用につながっていると考えています。

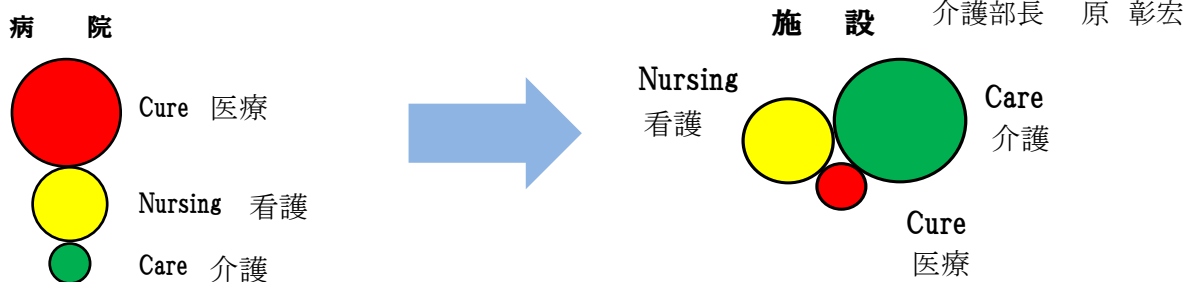
## 各部署間の情報共有について



いちいの杜では平日(月～金)の14:5～施設長(医師)、介護福祉士、看護師、リハビリスタッフ、ケアマネージャー、管理栄養士が参加する「ケアカンファレンス」という会議を行っています。これまで、この会議ではご利用者の日常生活動作(ADL)の変化に合わせ、各部署から意見を出し合いケアプランを変更したり、個別ケアの見直しを行ってまいりました。

全部署が集まる数少ない機会でもあるので、今月から業務連携を円滑にする為の意見交換も行うことになりました。それにより実施時間もこれまで15分程度としていましたが、30分程度に拡張し、話し合う内容の充実化を図ることになりました。話し合った内容も各部署にしっかり伝達できるよう、会議内容を掲示板にし、当日～次の日までの間に各部署で閲覧できるようにし、各部署が同じ情報をもって、統一した対応が出来るよう取り組んでまいります。また、医師や他職種からの提供情報や指示も意図、目的を理解して受けるよう、会議内で情報交換をして対応してまいります。利用者の日常生活動作(ADL)評価も「R-4ダイアグラム」を使用し、目標設定を視覚からも明確にし、フロアーリハビリに取り組んでいきたいと考えております。

何かお気づきの点がありましたらお近くのスタッフまでお声掛け下さい。



いちいの杜の運営理念を表したロゴになっています

### 他職種協働・業務連携について

高齢者の特徴は、多様な基礎疾患、健康状態の変化のしやすさ、老化の進行、認知症等に伴う精神状態の変化が挙げられます。これらの特長を持つ高齢者へ介護サービスを提供するには、一人一人の高齢者毎に、的確に状態を把握した上でケアプランやリハビリテーション計画を作成し、それに沿って適切に関わっていく事が重要です。その為には医学・看護知識や医療機関での医療経験(リハビリを含む)と高齢者介護分野での豊富な経験が必要となります。

介護や生活支援が必要な高齢者の生活を支える為、サービスの提供者側が考えなければならない事は、利用者一人一人において異なります。その為、個々のケアプラン等を実現するには、他職種がその状態・状況を共通理解し、議論して得た結果を共有して、各々の役割をこなしていく必要があります。これを他職種協働と言います。

いちいの杜のシンボルマークにもあるように、入所者に必要なのは「ケア」(癒す)が大半を占めています。その中でも中心的な役割を担うのが我々ケアワーカーである介護部です。超強化型老健となり、入退所が増加した事で、今まで以上に多様なケースのご利用者に対応して行く必要性ができています。他職種協働をし業務連携を確かなものにするには、介護部だけで「ケア」を支えていく事が物理的にも難しくなってきました。そこで、「ケア」を介護部のみならず、各専門職が専門性を活かしながら、今まで以上に「ケア」に関わる事を増やし協働する事で、各専門職から見た気付きが生まれ、他職種協働によるチームケアが強固なものになると考えました。9月を準備期間とし、10月から本格的に協働を行ってまいります。これからもニーズに合わせた質の高いケアを目指して取り組んで参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



相談部部長 白田 悦子

平成30年6月から見留ケアマネージャーが2階の担当となり、中山支援相談員とともに業務連携を目的として、朝の申し送り時、昼食時、食後の見守り時にフロアに上がっています。ケアプランと作る私たちケアマネージャーは、本人やご家族の意向、朝の申し送りやそれぞれの専門職からの報告でプランニングしていきます。今回、実際にフロアで介護や看護、リハビリの職員とともにケアに関わることで、フロア全体や利用者1人1人の状況や課題がみえてきました。ケアの統一や精神面の安定、安全への配慮ができるよう、実際に行っているケアの工夫をプランに盛り込み、より利用者 に即したプランにしていきたい。連携の重要性を改めて感じています。



看護部部长 佐藤 幸恵

”さあ、後半戦へ突入です”

いちいの杜の看護部にも新入職員が入職し、新しい風が吹いています。それぞれのこれまでの看護師としての経験を多くに出し合い、超在宅強化型老健として、看護の役割をしっかりと発揮していきたいと思っています。いちいの杜での経過が引き続き在宅で継続できるように、訪問看護やご家族様に伝えていけるよう努めていきます。猛暑だった夏から、心地良い季節となりました。さあ、後半戦へ向けて頑張っていきましょう。



リハビリテーション部部长 徳岡 美鈴

リハビリテーション部としては、2階介護職員の業務負担が厳しくなり、他部署で介護業務にヘルプで入ることになった現在の状態を介護部との距離を更に縮めることになればよいと考えています。具体的には担当者入所者以外の方とかかわりや生活場면을観察できることが、大変興味深いです。

フロア専従の作業療法士が、入所者を巻き込みながら日々の体操や運動をすることで、リハビリの専門性を高めていくことを目指しています。平たく言えば、今はまだまだリハビリ部と介護部が仲良くないと感じています。目的は同じはずなので、どうすれば良い相乗効果が生まれてくるのかの答えを探したいと思います。



栄養部部长 高木 美樹

私は、直接的な身体へのケアに関わることは少ないですが、食事場面での関わりを増やすようにしています。食事を配膳した時に「わあ！美味しそうな食事だね！」と喜ばれる姿を見ると、食事に対する関心を引き出せているなど嬉しく思います。食事以外の場面でも他職種が連携して利用者の皆様と関わりを持つことで、よい刺激を与えながら利用者さんの意欲を引き出し、生活の質を高められていけたらよいと思います。



事務長 川田 隆広

私達事務部は、請求・小口・勤怠・送迎・設備管理・修繕・採用・人事・研修・庶務全般等の業務があります。私自身は、介護施設の事務が目指すべき職員像は、上記事務の専門性のみならず、介護にも理解と知識がある“介護事務”ではないかと考えています。もちろん、直接支援を行うスタッフの皆様を支えて応援する役割と業務が、今までもこれからも主にはなりますが、今回のようにフロアフォローする機会は、正しい相互理解ができる一つのチャンスとして意識しています。よろしくお願ひ致します。

## 新入職員紹介

新たに以下の職員が仲間に加わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

### 看護部



北神 礼子



植松 さよ



薦田 江里



小田 直美



高野 照行

### 事務部(運転)

医療法人社団弘樹会  
介護老人保健施設 いちいの杜

住所 東京都昭島市武蔵野3-5-63  
TEL/FAX 042-500-0151/042-500-1533  
ホームページ <http://www.kanemitsu-c.or.jp/>  
Email [ichiinomori@nifty.com](mailto:ichiinomori@nifty.com)